

会議録(概要)

会議名	令和元年度 第1回芦屋町子ども・子育て会議					
会場	芦屋町役場3階31会議室					
日時	令和元年6月28日(金) 15:00~16:45					
委員の出欠	委員長	小林 和子	出	委員	三木 友妃代	出
	副委員長	伊藤 亜希子	出	委員	岩崎 眞樹	出
	委員	乙坂 有里	欠	委員	向井 米子	出
	委員	本郷 あゆみ	出	委員	今田 和彦	欠
	委員	濱野 頼子	欠	委員	新開 晴浩	欠
	委員	瓜生 幸加	出	委員	石川 智雄	欠
	委員	森山 真奈美	出	委員		
傍聴者	0名					
件名・議題	<p>議事</p> <p>(1) 子ども・子育て支援に関するニーズ調査(アンケート調査)結果について</p> <p>(2) 関係団体ヒアリング結果について</p> <p>(3) その他</p>					
合意事項 決定事項	<p>・報告書の修正、課題抽出については、再度精査して報告する。</p>					

令和元年度 第1回 芦屋町子ども・子育て会議

○日時 令和元年6月28日(金) 15:00~16:45

○協議

<議題1 子ども・子育て支援に関するニーズ調査(アンケート調査)結果について>

(1) 子どもと家族の状況、保護者の就労状況について

【質疑応答】

(委員)

・平成26年度の回収率は何パーセントか。

(事務局)

・就学前児童で51.8%、小学生児童が55.0%だった。

(事務局)

・事務局からの提案になるが、報告書にまとめている課題について、検討をお願いしたい。

1点目に、13頁の子どもと家族の状況に関する課題の中で「核家族化の進行やひとり親家庭が増加している中、今後、相談相手や日常的、緊急時に頼れる相手がいらない家庭も増えていくと推察されます。」とあり、一般的な課題として想像できるが、平成26年度の結果と比べて、日常的に祖父母にみてもらえる状況が増えており、「いずれも頼る人がいない」という回答も減っている状況にあるため、この表記で良いか。2点目に、14頁の母親の就労状況についてフルタイムが増えている状況にあるので、「フルタイム就労が増えている」ことを書き足した方が良いのではないか。3点目に、23頁の保護者の就労状況に関する課題の中で、母親の話はあるが、子育ての視点でみると、父親の働き方を変える事も課題として考えられるので、そのことについても触れた方が良いのではないか。

(事務局)

・主管課としては、出た数字を基本的に評価して課題として取り上げていきたい。ただ、皆様が日頃から感じておられることがあると思うので、一方的に書いたものを諮るよりも、事務局の考えを訂正しながら、最終的にまとめたものを提示したいと考えている。

(委員長)

・全国的な傾向だと思う。

(委員)

・芦屋町は自衛隊も多く町への出入りが激しいので、全国的に緊急時に頼れる相手がいらないという傾向は、芦屋町では多い傾向ではないのか。自衛隊官舎にいるから家族同士が仲良くなるといった独特の考え方もある。

(委員)

- ・親族にみてもらえる割合は増えている状況だが、その中でも「いずれもない」という方もいる。今は虐待のこともテレビで取り上げられており、保護者の負担から虐待につながることもあるので、少ないながらも大事な課題になるのではないかな。

(委員)

- ・あくまでも芦屋町の前回調査との比較になるが、増えたとはいうものの、親族に緊急時にみてもらえる人は半分、日常では3割程度しかいない。全国的にみると、この割合が多いのか少ないのかという基準がわからない。平成26年度と比較すると増えているが、決して多い数ではないので、ここに書かれていることは課題になってくると思う。全国的にどうか。

(事務局)

- ・全国比較まではできておらず、平成26年度だけとの比較になる。芦屋町の実態調査としての結果であるので、平成26年度と比較して減ってはいるものの、一般的にこういった家庭も増えていくことが推察されるという表記にしてはどうかと考える。

(委員長)

- ・では、そのような表記を付け加えてもらう。2点目の「母親のフルタイム就労が増えている」という表記は、14頁の解説もしくは23頁の課題に付け加えるのか。

(事務局)

- ・14頁の解説にと考えている。ご意見がなければ、こちらで調整して次回の会議で報告することも可能だが。

(委員長)

- ・では、次回の会議で報告してもらう。3点目の父親の働き方が母親の育児や仕事に関係するので、父親の働き方のことを課題の中に入れなくていいだろうかということだが。

(委員)

- ・先ほど、説明してもらった内容でいいのではないかな。

(委員長)

- ・家庭の問題でも町の問題でもない。働かなければならない場合もあるので、そういうことを含んだ表現が良いのではないかな。できれば、父親が子育てに参加しやすくするような表現があれば入れた方が良いのではないかな。

(事務局)

- ・父親の育休取得率が国の方でも問題になっている。国も民間企業に父親の育休取得を促しているようになってきている。そのあたりを踏まえ、父親の働き方、父親の認識や思い、働かざるを得ない状況もあるので、考えさせてもらいたい。

- (2) 定期的な教育・保育事業の利用、地域の子育て支援事業の利用、土曜日、日曜日・祝日や長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用について

【質疑応答】

(委員)

- ・ 25 頁の (1) 定期的な教育・保育事業の利用について、平成 26 年度調査と比べると「幼稚園」の利用が減少し、新たに「認定こども園」の利用が増加しているとあるが、調査開始が平成 31 年 4 月で、中央幼稚園が認定こども園に移行されたのも同じ 4 月になる。調査後すぐに移行されており、どこかの認定こども園に子どもが移ったというわけではないので、幼稚園利用が減ったという表記の仕方はどうなのか。

(事務局)

- ・ 芦屋中央幼稚園が認定こども園に今年の春に移行され、中央幼稚園の利用者が認定こども園に移ったものなので、平成 26 年度では幼稚園の利用が 40.6%、今回は幼稚園と認定こども園を足し合わせると 36.1%と同程度なので、相違はない。調査票の中にも幼稚園とは、私立幼稚園の愛生幼稚園のことで、認定こども園とは芦屋中央幼稚園という表記をしている。認定こども園への移行に伴う影響が大きいという表記を加える。

(委員長)

- ・ では、その通りをお願いします。

(委員)

- ・ 37 頁 (3) 長期休暇中の教育・保育事業の利用意向の幼稚園利用者は、私立幼稚園者だけになるのか。それまでは、認定こども園と幼稚園と分けてあったが、このままだと愛生幼稚園の利用者だけになるが。

(事務局)

- ・ 教育・保育事業の利用状況で、幼稚園を選択した人に絞った集計をしている。

(委員)

- ・ 私の子どもは認定こども園に通っているが、幼稚園で利用しているのでそういう意味で記入した。そう思っている方もいるのではないか。

(委員)

- ・ 芦屋中央幼稚園という名称の前に認定こども園と入っただけなので、もしかしたら、保護者の方が中央幼稚園であるという認識で書かれている方もいるかもしれない。

(委員)

- ・ 調査内容も保育所、幼稚園、認定こども園と分類されているのに、この問だけ幼稚園で一つになっている。

(委員長)

- ・ n = 18 というのは、18 人が回答したことになるのか。

(事務局)

- ・ そうである。認定こども園を選択した方は母数には含まれていないので、愛生幼稚園利用者だけの可能性もある。認定こども園を選択した方も含んだかたちで集計した結果をみる。

(3) 病気になった時の対応、不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かりなどの利用について

【質疑応答】

なし

(4) 小学校の放課後の過ごし方について

【質疑応答】

(委員)

- ・ 学童保育の利用料金はいくらになるのか。利用料金を安くしてほしいという回答が多い。

(事務局)

- ・ 月 15 日以上の利用は月 6,000 円、15 日以下になれば 4,000 円が基本料金となる。きょうだい利用であれば半額減免や低所得世帯であれば減額などがある。

(5) 育児と仕事の両立、子育てに関する生活環境、子育て全般について

【質疑応答】

(事務局)

- ・ 自由意見はたくさん出ていたが、個別の意見が強くなるとアンケートの要素が変わってしまうことがあるので、今回は配布していない。今度、整理してお示しする。

(委員)

- ・ 42 頁の課題の中で、「町内の病院で実施する病児・病後児保育室」とあるが、芦屋町内にあるのか。

(事務局)

- ・ 今は町内にはない。遠賀郡共同で、遠賀・中間医師会のおんが病院で病児・病後児保育を実施しているので、実際に利用するにはそちらの病院に行くことになる。

(委員)

- ・ それでは、現在は町内にはないが、町内で利用できる病院があれば利用したいという意向になるのか。

(事務局)

- ・質問の中では町内外の利用は尋ねていないので、病児・病後児保育事業の利用意向として整理させてもらいたい。

(委員長)

- ・それでは、文言の修正をお願いします。

(委員)

- ・75頁の生活環境に関する課題の中で、「誰でも気軽に通うことのできる居場所を兼ねた学習支援教室の設置や子ども食堂など」と具体的に書かれているが、アンケートの中に強い意向があったのか。また、それに対して町が取り組むことになっているのか。

(事務局)

- ・この部分については、アンケートの中でも子ども食堂の設置を求めるような質問項目はない。ただ、自由意見の中で1人の方からはそういった意見があったが、その意見だけで課題とする表現は不適切かもしれない。再度、精査して次回までにはお示ししたい。

(委員)

- ・この2点とも芦屋町にはないものなので、良いことだと思う。消極的にならないで、町もその方向に向かって行ってほしいと思う。

(事務局)

- ・学習支援については、アンケートからも求められていると思うが、子ども食堂については、求められているとは判断できない。課題のひとつとしては捉えているが、今すぐ取り組む課題としてはどうかと思う。

<議題2 関係団体ヒアリング結果について>

【質疑応答】

なし

<議題3 その他>

(事務局)

- ・今後のスケジュールとしては、7月中を目途に次の会議を開催したい。次回は、人口の推移や保育所・幼稚園の利用意向やニーズ量を具体的に示して、課題抽出をさせて頂く。